

静岡県下少年剣道錬成大会 監督・審判員確認事項
令和5年1月30日

1. 審判の交代と選手整列について

- 予選リーグ 選手整列は2チーム同時に行う。2試合連続で行った後、審判交代
審判交代時は旧審判の後ろに新審判が整列
- 決勝トーナメント 選手整列は1チームずつ行う
審判は1試合ごとに、すれ違い方式で交代

2. 基本錬成時の副審の位置

副審は相互の礼の後、開始線の外側を通過して定位置へ移動
切り返し時、1回目の左右面9本を審判後、副審同士の立ち位置を交代しつつ
2回目の左右面9本は反対側の副審の位置に移動する。
副審の位置が入れ替わったまま打ち込みを審判し、元の位置に戻らないまま判定
この方式で2試合を判定すれば最後はまた元の位置に戻っている。

3. 審判の宣告

- 予選リーグ 選手蹲踞の状態ですべて「はじめ」。終了後、蹲踞から互いの礼の後に「判定」
主審は「判定、3対0、もしくは2対1 赤(白)の勝ち」
2対1の時、主審が1だった場合、そのままの状態ですべて「2対1」と宣告
宣告後、直ちに勝者側に旗を差し替えて「赤(白)の勝ち」
不戦勝ちの場合、主審のみ旗を上げて「3対0赤(白)の勝ち」
チームの不戦勝ちの場合、宣告は省略
- 決勝トーナメント 通常通り

4. 着眼点と申し合わせ事項

- 予選リーグ **元立ちは発声させない。(切り返し、打ち込み時)**
切り返しの左右面は竹刀で受けること
切り返し時の体当たりは、してもしなくてもどちらでも良い
技はすべて大技。
振りかぶりの大きさは左拳が全額ぶまで上がっていれば良い。
それ以上の振りかぶりを比べるものではない。
着装の乱れは演武継続が危険と判断した審判が「止め」をかけ
赤白双方の演武を中止し、着装を直した後、残り時間を双方で行う
判定は振りかぶり、足捌き、技の練度などの総合判定で行う。

- 決勝トーナメント
鏝ぜり合いの指導は双方を集めて1回だけ行う